

- 自ら考え、表現できる人（創造）
- 仲間とともに高め合える人（共生）
- 心身ともにたくましい人（健康）

## 合同授業研究で授業の質的向上と小・中の接続を追究

本年度は小学校と中学校との学習内容や指導方法の連続性を高めるために、教員全員参加の合同授業研究会を2回計画しました。



左の写真は、9月14日（水）に実施した公開授業の風景です。鈴木正人教諭が、3年生の理科の授業を行いました。斜面を下る台車の運動の実験結果から、物体の速さと時間などの規則性を見いだす考察の授業場面です。

本年度も学習院大学大学院教授 佐藤 学先生をお迎えして、須賀川三小の先生方を含む90名を超える参加者がありました。その皆さんからも、佐藤 学先生からも「生徒同士が学び合いながら個々に考察・探求が深められた」との評価をいただき、協同的で質の高い学びを実現する授業を目指し、成果を踏まえながらさらなる研鑽（けんさん）に努めてまいりたいと考えております。

右下の写真は、11月7日（月）、須賀川三小で行われた5年生 算数（授業者：加藤和司先生）の授業研究会の様子です。本校からは、研究主任の面川教諭、数学を担当している水野、永井、柳橋教諭の3名と校長・教頭が参観し、その後の事後研究会でも積極的に意見交換を行いました。小学校側のご配慮で全クラスの授業を開放していただき、上記以外の教員も自分の担当教科に即して授業を参観することができました。事後の研究協議会では、小学5年生の表現力の実態とそれを高める指導の在り方、児童の多様な意見を比較・検討する学習活動の在り方などについて考えを交流しました。お互いの研究テーマについても理解が進み、目指す授業のスタイルも近づけられることが確認できました。



## 小学6年生が中学校を体験

11月4日（金）の午後は、須賀川三小と阿武隈小の6年生が来校し、中学生の授業を参観した後、中学生に混じって部活動を体験しました。部活動体験は前半と後半に分けたので、各自2つの部活動を体験することができました。

授業参観と部活動体験の間には校長と教頭のお話があつて、私は、会津藩校「日新館」の校名の由来（ゆらい）を話し、「日々新タナリ（一日学校で学んだら、学校に来る前よりも向上した、新たな自分になる）」という気持ちで、中学校3年間のその一日一日を大切に過ごしてほしいと伝えました。

部活動体験が一番楽しみだったようで、活動場所を探して急いで行き、目を輝かせて先輩の真似（まね）をして活動していました。そのワクワク感を大切にしてほしいと思います、



## 3年生、面接練習開始

三者相談が終了すると、志望校や受験タイプによってはすぐに出願書類の準備に入り、面接の練習も始まります。

面接で最も重要なのは、志望動機を明確にすることです。文章にまとめてみるとよいでしょう。その際は、あまり長くならないように心がけます。

また、生徒が特に緊張するのは、礼儀正しい動作やことばづかいです。2学期の後半は、あらためて授業中や職員室での態度やことばづかいの指導を大切にしています。学校や家庭、地域は練習の場です。そこで正しくできるようになれば、あわてることはありません。特に、年末年始は来客に対して敬語を使う場面も多くなりますから、実践練習のいい機会です。

ご家庭での話題提供にクイズです。次の文はどこが間違っているか、お子さんと対決してみましょう。

- 1 「お電車で通学します」
- 2 「校訓が立派でいらっしゃいます」
- 3 「母方のおじさんが貴校の卒業生です。」
- 4 「貴校の先生がまいられたときに・・・」
- 5 「松明あかしは拝見されたことがありますか」

## スプリングコンテスト、頑張れば合格できる

本校では、すべての生徒に必ず身につけてほしい基礎的な学力の定着をねらい、漢字コンテスト、計算コンテスト、スプリングコンテストの3つを年間各1回実施しています。今年のスプリングコンテストは12月14日(水)の朝の読書の時間に実施します。これまで学習してきた英単語の中から基本的な英単語100語を指定し、日本語から英語に直すテストをします。100点満点で90点以上が合格です。不合格だった生徒は合格できるまで何度でもチャレンジできます。どうせやるなら、「1回で合格」という心意気が高い集中力を生みます。

これまで学習した単語なので、初めに覚えている単語と覚えていない単語とを区別するとよいでしょう。次は覚えていない単語を練習するわけですが、その効果的な練習のコツを2つ紹介します。

一つめのコツは、「初頭効果」と「終末効果」を利用することです。何かの作業を行うと、はじめと終わりが特に集中力が高くなります。そのため、はじめと終わりで練習した部分の効率がよくなります。これを「初頭効果」と「終末効果」と言います。ですから、1回に9個の単語を練習するとすれば、3つずつ「はじめ・中・終わり」に分けて2回目、3回目は「はじめ・中・終わり」の順番を入れ替えて練習すると効果的に覚えられます。だからと長く勉強しないで、途中で休憩(きゅうけい)をとるとよいというのも同じ理由で、休憩によってはじめと終わりを自分で作るのですね。

二つめのコツは、「記憶のゴールデンアワー」の活用です。これについては、1学年だより第29号でも触れられていました。就寝前の時間に覚えたことは記憶に残りやすいのです。自分でその日に練習した単語の豆テストをやってみて、できなかった単語を5～10回ずつ書いてから寝るようにします。翌朝起きたら、豆テストをやってみるとその効果を実感できるでしょう。なお、せっかく練習したその後に、スマホやゲームなどをして、脳に余計な刺激を与えてはいけません。とくに、情報メディアの刺激は強いので、寝る前は避けましょう。

## いつでも 誰にでも 何度でも

11月9日(水)から始まった教育相談が18日(金)で終了しました。お忙しい中、ご協力いただきまして誠にありがとうございました。

相談時間が限られていましたので、十分に話ができなかった方がいらっしゃるかもしれません。また、その後心配なことができたという方もいらっしゃるかもしれませんね。そのような場合は、いつでも申し出てください。私も含めて教職員全員が相談員です。必要に応じて、教育委員会などの相談員とも連携します。

敷居(しきい)の低い学校でありたいと考えております。ささいなことだと遠慮なさらず、どのような場合でもお互いに早期対応が大事だと考え、つながってまいりましょう。

「お電車で通学します」  
「校訓が立派でいらっしゃいます」  
「母方のおじさんが貴校の卒業生です。」  
「貴校の先生がまいられたときに・・・」  
「松明あかしは拝見されたことがありますか」